

市民説明会－持続可能なまちの実現へ－ 議事概要

■ 日 時：令和４年７月２０日（水）１８：３０～

■ 場 所：崎山公民館 多目的ホール

■ 次 第

- １．開 会
- ２．あいさつ
- ３．職員等紹介
- ４．立地適正化計画検討の進め方について
- ５．質疑応答
- ６．閉会

〔参加者〕

市 民 参 加 者：０名

宮古市 都市整備部 都市計画課：藤島部長、盛合課長、中野係長、花坂主査、田道主査、高屋敷主任
（株）エイト日本技術開発：島、奥谷

○質疑応答

質問・意見： なし

回 答： なし

※市民参加者が０名のため、中止

以 上

市民説明会－持続可能なまちの実現へー 議事概要

■ 日 時：令和4年7月21日（木）18：30～19：30

■ 場 所：市民交流センター 2階多目的ホール

■ 次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 職員等紹介
4. 立地適正化計画検討の進め方について
5. 質疑応答
6. 閉会

〔参加者〕

市 民 参 加 者：7名

宮古市 都市整備部 都市計画課：藤島部長、盛合課長、中野係長、花坂主査、田道主査、高屋敷主任
（株）エイト日本技術開発：松本

○質疑応答

質問・意見：SDG s や持続可能な社会などの用語がある。説明はなんとなくわかるが、言葉が独り歩きしている。持続可能なまち、持続不可能なまちの違いを教えてください。数値化してもらえると良いが。宮古市の現状をとらえると、もう持続不可能なまちととらえて良いのか。

回 答：持続可能か持続不可能かの数値的なものは無い。持続不可能というのは、少し前に消滅都市というのがあったが、人口減少により活動ができなくなり、限界集落に向かっていくということだと思うが、現状の宮古市はそうではないと考えている。立地適正化計画は人口減少が進行するなかで、改めて持続可能なまちの実現について考えていくということである。

質問・意見：立地適正化計画は20年後を見据えるとのことだが、人口減少が早くなっている。パブリックコメントにも書いたが、人口5万人を切り6月で4万8千人になった。減り方も激しくなりさびれてきている。そのために何をするかということであり、若い世代の定住や少子化に対する施策がでていない。地元の学校の卒業生を市内に就業させることにに関してなかなか良い傾向がでていない。空き家があり、あきらめに似た気持ちになる。人口減少の減り方を抑える努力が大事だと思っている。

回 答：予測より早く人口減少が進展しており、現実には厳しい状況である。いかにして若い世代や子供たちが定住してもらえるかということを考えていかなければいけない。計画の検討体制で示したように、テーマによって分科検討委員会を設置することとしているため、必要があればその中で検討していきたい。20年後を見据え少しでも人口が減らないように施

策を検討していく。

質問・意見：高齢者の増加が見込まれているので、高齢者に優しく、安全・安心して暮らせて、他の地域の高齢者が移り住んでくるまちにしてもらいたい。高齢者でも働けるように、体力に応じて労働時間に配慮していくことが必要。高齢者が増えることは明らかであるため、高齢者がいきいきと働けるまちとしてほしい。また飲食店では跡継ぎがいない。沿岸部の観光を考えると、料理人の育成・確保が必要だと思う。観光や飲食を失わないようにしたい。通りをマーケットのように歩いて買い物ができるようなまちづくりがいいのではないかな。観光面も施策に盛り込んでももらいたい。山田線には人が乗っていない。無人の販売システムやネットを活用して高齢者にやさしいシステムを考えてもらいたい。

回 答：まちの活性化も非常に重要であると考えている。歩いて楽しめるまちとして無電柱化を進めているところであり、きれいな道路にしていきたい。また、アクセスについても使いづらい部分もあり、気軽に移動できる交通も大きなテーマであると考えている。

質問・意見：コンパクトシティを考えると宮古市には海側だけでなく山側にも資源がある。川井にも大きな資源があると思う。人口がどんどん減っている状況で、若い人6千人が将来の宮古市を守ってくれるのか。外から入ってもらえるのか難しいと思う。宮古市は観光にもう少し力を入れても良いと思う。

回 答：交流もやはり重要であると思う。新里や川井にも豊かな自然があり、魅力のある場所がある。それらの情報を周知することで交流が生まれ、地域の活性化へとつながると考えている。

質問・意見：すぐにできるものは対応してもらいたい。少しでも人口減少を止めることができるよう、ぜひ頑張ってもらいたい。

質問・意見：夢のある計画だと思う。早いペースで人口減少が進んでいるため、みんなで助けあう優しいまちにしたい。居住の誘導というのは国の補助金があるのか。お金はどこからでてくるのか。コンパクトにするとあるが、実際に今住んでいる所を捨てて移り住むのは厳しいのではないかなと思う。今後は都市計画区域に規制をかけていくということか。

回 答：利便性の高い拠点の周辺に居住を緩やかに誘導するもので、誘導区域外の住民に対して転居を強制するものではない。他の都市でも建物や人が一気に動いた事例はない。北原先生の講演会にもあったように、いまある形をすぐに変えるものではない。指定された区域内については、補助や支援が手厚くなる。転居についても支援している事例も徐々にでてきている。支援策については今後計画の中で検討していく。誘導施設に指定された建物を区域外に整備する場合には、届け出が必要となる。

質問・意見：計画としては、20 年後に向けて人を集めていく、高齢になった時に優しいまちにすることかと思うが、新里にいる人たちが 20 年後にはいなくなってしまう。すぐに対策すれば人が来るようになると思う。スピード感をもっていないと、盛岡や仙台に人がいってしまう。いずれ変えていくというのは、人はいなくなってしまうので、スピード感

をもってやってもらいたい。

回 答：スピード感も非常に重要と考えているが、今年と来年で誘導する区域等や施策を検討していきたい。

以 上



市民説明会－持続可能なまちの実現へー 議事概要

■ 日 時：令和４年７月２２日（金）１８：３０～１９：３０

■ 場 所：田老公民館 ２階大会議室

■ 次 第

- １．開 会
- ２．あいさつ
- ３．職員等紹介
- ４．立地適正化計画検討の進め方について
- ５．質疑応答
- ６．閉会

〔参加者〕

市 民 参 加 者：５名

宮古市 都市整備部 都市計画課：藤島部長、盛合課長、中野係長、花坂主査、田道主査、高屋敷主任
（株）エイト日本技術開発：松本

○質疑応答

質問・意見：今回の説明会のお知らせはどのような形で周知したのか。

回 答：７月１日に市の広報でお知らせをしている。また、市長の会見、４地区の協議会、ホームページにも掲載させていただいている。

質問・意見：地域的な状況もあり、説明のタイミングが重要である。重要な説明会であると考えますが、市民センターや他地区での参加状況はどうか。

回 答：崎山地区は参加人数がゼロ。市民交流センターでは７名が参加している。

質問・意見：説明にある「コンパクトシティ」を計画している市町村はどこにあるのか。

回 答：県内では二戸市、盛岡市、北上市などが策定している。また山田町も現在作成中である。県外でも策定が進んでいる。立地適正化計画は、都市機能のある程度まとめていくエリアを指定し、そこに居住を誘導していくものであるが、現在ある集落や各地域での居住を否定するものではない。他の市町村では独自のエリアを指定しており、宮古市でも今後独自のエリアの設定を検討していく。持続可能なまちとしていく計画としてとらえてもらいたい。

質問・意見：宮古市は過疎化が進行しており、空家もある。現在住んでいる場所を離れられないという場合もある。今後の進め方として、参加者が少ないので、アンケート調査をする際には、より多くの人から意見をもらえる方法を考えていただきたい。ワークショップやアンケート調査の意見を十分にまとめることにより、具体的な方向性がでてくる。地域をどのよう

にすれば、安心して暮らせるかを反映していくことが重要で、段階的に進めていくことにより、地域づくりができれば良いと考える。

回 答：協議会には、自治会や福祉、交通関係の方にも入ってもらっている。アンケートは幅広い方を対象に調査をしていきたい。特に、若い人の意見が反映されるアンケートとしていく必要があると考えている。

質問・意見：立地適正化計画は、居住誘導区域を決めていくということか。

回 答：計画のなかでは、防災指針というものを検討していくことになる。市役所も冠水する場所に入っており、別の場所に移すというのは現実的ではない。少なくとも一定の想定のもとに、命を守るための対策。最悪の状況で考えていくのには、調整が必要となる。

質問・意見：子育ての問題に取り組んでいかないといけない。

回 答：昨日の説明会でも子育て、若い人、高齢者に配慮することの意見が上がっている。人口構成のパーセンテージでも高いところであり、きめ細かくみていくことが必要であると考え

質問・意見：現在、市が進めている再生可能エネルギーについてどう考えているか。

回 答：立地適正化計画にどう盛り込むかについての回答はできないが、再生可能エネルギーのゾーン設定、太陽光発電、洋上風力発電、小型水力発電をやるというのを聞いている。公共交通での再生可能エネルギーの利用、地域内エネルギーの循環、エネルギーの地産地消というイメージである。

質問・意見：立地適正化計画と切り離していくのではなく、市としてこれから取り組んでいくという意思表示が必要である。

以 上



市民説明会－持続可能なまちの実現へー 議事概要

■ 日 時：令和４年７月２５日（月）１８：３０～１９：３０

■ 場 所：津軽石公民館 多目的ホール

■ 次 第

- １．開 会
- ２．あいさつ
- ３．職員等紹介
- ４．立地適正化計画検討の進め方について
- ５．質疑応答
- ６．閉会

〔参加者〕

市 民 参 加 者：８名

宮古市 都市整備部 都市計画課：藤島部長、盛合課長、中野係長、花坂主査、田道主査、高屋敷主任
（株）エイト日本技術開発：奥谷

○質疑応答

質問・意見：立地適正化計画には、工業地域に関すること含まれるのか。宮古市で生活をしていくことを考えると働く場所の確保が重要だと思う。

回 答：現在、まちの課題整理を進めているところだが、そのなかで産業の状況など働く場所も含めて検討していきたい。

質問・意見：昨日の新聞で利用者が少ない鉄道路線の見直しに関する記事を見たが、市としても公共交通の維持について計画的な対策が必要であると思う。

回 答：三陸鉄道や山田線でも利用者数が減少していくことが予想される。現在、立地適正化計画と同時に地域公共交通網形成計画の見直しをしているため、そのなかで検討したいと思う。

質問・意見：津軽石地区では、人口が毎年１００人程度減少している。人口減少に対応するためには、働く場所も非常に重要だと思う。また、全国では鉄道を活用した観光客の取り込みや地元の産物を活用して働く場所を創りＵターンを図っている事例もあるので、宮古市でもそのような取り組みが必要だと思う。

回 答：宮古市全体でも毎年１，０００人程度減少しており、人口減少に対応するためには、働く場所が重要であると考えている。現在まちの課題整理を進めているところだが、課題整理の中で検討していきたい。

質問・意見：資料にある生活サービス機能とはどのようなものか。

回 答：資料では、住民の方々が生活をする上で主として必要となる施設として「医療」「福祉」

「商業」の3つを例に挙げており、それらの施設の維持に必要な人口規模のイメージを示している。

質問・意見：コンパクトシティはいいことだと思うので計画を作ることに賛成する。ある程度集約して住むことでインフラも効率的に整備できると思うので、計画づくりを進めてほしい。

質問・意見：都市機能誘導区域や居住誘導区域に施設や居住を誘導する計画と理解したが、それらはどのように誘導を図っていくのか。

回答：先行事例をみると都市機能誘導区域内に施設を整備する際に国からの支援が受けられたり、居住誘導区域内に転居する際の費用に対して補助を出したりする事例がある。現時点では、宮古市として具体の施策は決まっていないが今後計画を作成するなかで検討していく。

以 上



市民説明会－持続可能なまちの実現へー 議事概要

■ 日 時：令和４年７月２６日（火）１８：３０～１９：３０

■ 場 所：新里福祉センター １階和室

■ 次 第

- １．開 会
- ２．あいさつ
- ３．職員等紹介
- ４．立地適正化計画検討の進め方について
- ５．質疑応答
- ６．閉会

〔参加者〕

市 民 参 加 者：１２名

宮古市 都市整備部 都市計画課：藤島部長、盛合課長、中野係長、花坂主査、田道主査、高屋敷主任
（株）エイト日本技術開発：奥谷

○質疑応答

質問・意見：事務局に入っている（株）エイト日本技術開発の役割について説明がなかった。

回 答：まちづくりのコンサルタントとして、資料にある人口減少など様々な数値的なデータの収集・解析や計画の検討について市からコンサルタント業務を委託しているものである。他自治体でも立地適正化計画策定の経験があることから、宮古市でも経験を活かしながら検討を進めていただくものである。

質問・意見：有識者会の構成について、地域の代表者は入れないのか。国の政策の有識者委員会でも委員が現地を知らないために、現場が混乱する場合があると思う。

回 答：有識者会は大学の先生が主になるが、その他に協議会があり、そちらには漁業や商業、観光、自治会、交通等の各分野の代表の方々に参画して頂いている。

質問・意見：農業政策とコンパクトシティとの関係はどのようなになっているのか。

回 答：一次産業は大変重要な産業であると考えており、課題整理のなかで検討する。立地適正化計画は主な居住や生活に関する計画となるため、農業施策について具体的な内容を検討するものではないが、農業分野との調和を図りつつ計画を検討したい。

質問・意見：都市再生特別措置法は時限的な法律か。

回 答：現状では時限付きの法律ではない。都市計画法が基本となるが、都市再生の観点から都市再生特別措置法の中で立地適正化計画の作成について定められたものという位置づけである。

質問・意見：新里・川井地区について事務局としてどのような考えを持っているか。

回 答：都市計画マスタープランの将来都市構造では、新里・川井地区を生活拠点として位置づけており、個性と魅力ある生活拠点の形成を目指すものとしていた。今回改めて新里・川井地区を含めた市全域で現状を整理しまちづくりを検討していく。新里・川井地区は都市計画区域ではないが、市としては市域全体の活性化が必要であると考えているため、市独自の区域の設定も含めて検討したい。

質問・意見：今後、新里・川井地区でアンケートやワークショップを実施する予定はあるか。またまちづくり協議会等で説明する予定はあるか。地域の声をどのように吸い上げていく予定か教えて頂きたい。

回 答：宮古市全体として持続可能なまちを実現するためには、市全域を対象として皆さんの意見をお聞きする必要があると考えているため、アンケートやワークショップについては広く実施していきたい。また、その中で要望を頂いた場合は、説明にお伺いして、例えばまちづくり協議会の場をお借りしてご意見伺うなど、幅広く皆さん意見を取り入れたいと思っているので、今後ともご協力をお願いしたい。

質問・意見：社会福祉法人の立場から、福祉を含めた地域コミュニティづくりとこの計画は関連があるのかを教えてください。

回 答：福祉施設も重要な生活サービスと考えている。具体的にどこに福祉施設を配置するかの検討は、福祉サイドの計画になるが、地域の生活との関連が深いため、福祉分野とも連携しながら検討していきたい。

質問・意見：スライドの19ページの計画の図が、新里・川井地区が分断されているようなイメージを持つ。宮古市民が飲んでもる水は閉伊川が水源で、それは上流の森林整備や農地や水田があるからだと思う。費用対効果のみで効率的な誘導ばかりをすると、地域・文化の消滅の恐れがある。宮古市のキャッチコピーのとおり、森があつて川があつて海がある、そういうことを踏まえて計画を作って欲しい。

回 答：それぞれの地域における生活についても大変重要であり、決して地域を分断したり極端に誘導したりするという意識ではないということをご理解頂ければと思う。市全体として持続可能なまちづくりを検討するとともに、それぞれの地域での生活を尊重しながら、適切な誘導を図っていきたい。

以 上



市民説明会－持続可能なまちの実現へー 議事概要

■ 日 時：令和４年７月２７日（水）１８：３０～１９：３０

■ 場 所：川井生涯学習センター １階会議室

■ 次 第

- １．開 会
- ２．あいさつ
- ３．職員等紹介
- ４．立地適正化計画検討の進め方について
- ５．質疑応答
- ６．閉会

〔参加者〕

市 民 参 加 者：７名

宮古市 都市整備部 都市計画課：藤島部長、盛合課長、中野係長、花坂主査、田道主査、高屋敷主任
（株）エイト日本技術開発：奥谷

○質疑応答

質問・意見：宮古市の都市計画では、川井地区を農村地域と捉えているのか、山村地域と捉えているのか。

回 答：農村か山村かの明確な区分はしていない。資料にあるように都市計画マスタープランの将来都市構造では、川井地区を生活拠点として位置づけており、拠点として様々な都市機能が立地しており、その周りに地域の生活があり、その中に農業や林業もあると捉えている。立地適正化計画では、都市計画区域内が主体となるが、同じように生活拠点の今後のあり方について検討していきたいと考えている。

質問・意見：農水省の補助では区分があるため先程の質問をした。居住の誘導は、具体的にどのように行うのか。例えば川井から居住誘導区域内に転居する場合、集合住宅を整備するのか、それとも個人で土地を探すのか。

回 答：立地適正化計画は、持続可能なまちづくりのために、都市機能や居住をある程度集約させて誘導するものであるが、居住誘導区域外から居住誘導区域内に転居しなければならないというものではない。それぞれの拠点の機能を維持しながら、都市全体として持続可能なまちづくりをするために誘導が必要であると考えている。

質問・意見：説明を聞いたところ川井地区は 20～30 年後にはなくなってしまうのかという印象を持った。また宮古市は、宮古駅の周辺で主たる施策を進めるんだという印象を持った。説明会のタイトルでは分かりにくかったが、このような内容とわかっていればもっと説明を聞きに来る人がいたと思う。自分は聞きに来て良かったと思う。

回 答：川井地区は都市計画マスタープランでも生活拠点として位置づけ、地域の生業や生活も

重要だと考えている。現在まちの課題を整理しているところだが、市域全体を対象として検討している。また、立地適正化計画は基本的に都市計画区域が対象となるが、宮古市では都市計画区域外にも市独自の区域の設定することを検討している。

質問・意見：川井地区は生活拠点として位置づけられているが、印象的に田老や津軽石などの地域拠点から1ランク落ちているように感じる。川井も地域の拠点だと思うので、川井も地域拠点として位置づけて検討していただければ印象が良くなると思う。また、人口減少の対策も含めて検討する必要があると思う。

回 答：都市計画マスタープランでは拠点の名称を分けているが優劣をつけている訳ではない。今後、川井地区についても市独自の区域の設定を検討していく。人口減少についても大きな課題であると捉えており、立地適正化計画のみでの対策は難しいと思うが、人口減少に対する視点も踏まえて検討したい。

質問・意見：協議会を開催するとのことだが、その中に若者 20～30 歳代の人に日当を支払ってでも参加してもらって検討してほしい。

回 答：立地適正化計画は、10～20 年後を見据えた計画で、その時の中心となるのはご意見の通り今の若い世代だと思う。協議会のほかにも、ワークショップやアンケート調査の実施を予定しているので、それらにおいて例えば高校生などの若い世代に意見を聞いたり、参加して頂いたりしながら、計画を作っていきたいと思う。

質問・意見：各会場における参加人数はどの程度か。

回 答：崎山公民館は0人、市民交流センターは7人、田老公民館では5人、津軽石公民館では8人、新里生涯学習センターでは12人であった。

質問・意見：人数を聞くと市民全体に対する説明会の周知が十分ではなかったと思う。

回 答：ご指摘のとおり、全体的に参加人数が少なかった。今後も立地適正化計画に関する説明会の開催を予定しているため、広く周知を図りたい。

以 上



市民説明会－持続可能なまちの実現へ－ 議事概要

■ 日 時：令和４年７月２８日（木）１８：３０～

■ 場 所：重茂公民館 ２階促進ホール

■ 次 第

- １．開 会
- ２．あいさつ
- ３．職員等紹介
- ４．立地適正化計画検討の進め方について
- ５．質疑応答
- ６．閉会

〔参加者〕

市 民 参 加 者：０名

宮古市 都市整備部 都市計画課：藤島部長、盛合課長、中野係長、花坂主査、高屋敷主任
（株）エイト日本技術開発：奥谷

○質疑応答

質問・意見：なし

回 答：なし

※市民参加者が０名のため、中止

以 上

市民説明会－持続可能なまちの実現へー 議事概要

■ 日 時：令和4年7月29日（金）18：30～19：30

■ 場 所：花輪農村文化伝承館 多目的ホール

■ 次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 職員等紹介
4. 立地適正化計画検討の進め方について
5. 質疑応答
6. 閉会

〔参加者〕

市 民 参 加 者：2名

宮古市 都市整備部 都市計画課：藤島部長、盛合課長、中野係長、花坂主査、田道主査、高屋敷主任
（株）エイト日本技術開発：奥谷

○質疑応答

質問・意見：市独自の区域を設定することでどのようなメリットがあるのか。

回 答：立地適正化計画は都市計画区域内に誘導区域を設定することが主な内容となるが、市内には各地域に生活の拠点があり、それらの現状を把握するために、市全体を対象として課題整理を実施しているところであり、それぞれの課題を踏まえ独自の区域を設定して、地域に対して市として取り組みをする必要があると考えてる。具体的には今後検討を進める。

質問・意見：市独自の区域を設定した地域に対してどのような施策が想定されるか。

回 答：現在課題を整理しているところであるため、具体的な対応は今後検討していくこととなるが、人口減少や高齢化に対して各地域でどのような取り組みが必要かということについて盛り込んでいくことを想定している。

質問・意見：居住の誘導は難しいことだと思うが、都市計画区域内に誘導していったときにその他地域についてもどのようにっていくか考える必要であると思う。

回 答：各地域拠点においてどのように、現在の生活サービスを確保していくかは非常に重要であると思う。人口が減っていくことは避けられないが、長い視点で減り方をできるだけ緩やかにしつつ、全域で一様に減少するのではなく、都市機能をある程度まとめたエリアに集め、少しずつでも一定の範囲に誘導し、そのうえで各エリアを公共交通で繋ぎ利便性を確保していきたいと考えている。

質問・意見：先行的な事例はあるか。

回 答：コンパクトシティで有名なのは、富山市。県内で立地適正化計画を策定しているのは、盛岡市、二戸市、花巻市、北上市などがあり、山田町で取組みを始めている。

質問・意見：8Pのアクセスしやすい公共交通体系とはどのように実現するのか。

回 答：市では公共交通の計画として地域公共交通網形成計画があるが、現在見直しているため、連携しながら検討していきたい。

以 上



市民説明会－持続可能なまちの実現へー 議事概要

■ 日 時：令和4年7月31日（日）13：30～14：30

■ 場 所：市民交流センター 2階 多目的ホール

■ 次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 職員等紹介
4. 立地適正化計画検討の進め方について
5. 質疑応答
6. 閉会

〔参加者〕

市 民 参 加 者：10名

宮古市 都市整備部 都市計画課：藤島部長、盛合課長、中野係長、花坂主査、田道主査、高屋敷主任
（株）エイト日本技術開発：島

○質疑応答

質問・意見：コンパクトな住みやすい街というのはわかるが、何年後、何十年後にどのくらいの人が入ってくることを想定しているのかなど具体的な数値目標が見えてこない。

回 答：人口減少や少子高齢化は避けられない状況であるが、ある一定の範囲で機能を集約することが必要だろうと思っている。具体的なことはこれからの計画なので、現時点で数字などはなく、今後検討していく。中心部に集めるという考え方ではなく、それぞれの地域の拠点は大切にしていきたい。そのための市全域を対象にまちの課題の整理をしているところである。

質問・意見：子供たちの教育、幼稚園、小中高大学についても検討してはどうだろうか。

回 答：各地で学校の統廃合がされている中で、教育は将来にとって必要なことであるので教育環境もしっかりするべきとは考えている。

質問・意見：協議会自体が現在どういう状態か、メンバーは具体的にどういった人たちなのか。

回 答：メンバーは現在 34 名で構成学識の方や各分野商業、福祉、交通、消防団、PTA など。今回の協議会は、計画の段階から行政と市民の代表で構成されているのが特徴である。また、計画の正当性や偏った協議になっていないかについて、有識者からアドバイスをもらうこととしている。

質問・意見：少子高齢化は日本中での問題ではあるが、人口の減少や若者が育たない、他所から人が入ってこないということを食い止める方法はないのだろうか。

回 答：土地利用という観点でこれから検討していくものであるが、今回の計画で誘導施設の位置づけというものがあり、医療福祉・子育て・商業などの都市の魅力づくりというものも踏まえて検討する。

質問・意見：津波の心配があるので、高さのある場所に居住地を作ってもらえたら安心できる。またバスでバイパスにある商業施設に行けるようになると便利になるし住みやすいと思ってもらえるのではないかな。

回 答：誘導区域のなかにも防災指針というものを併せて考えていく。地域公共交通網形成計画も改定を予定しており、地域のニーズに合ったものを検討していく。

質問・意見：将来のコンパクトシティも大事だが、市民がどう生きていくのか。若い人たちが宮古に住もうとしたときに仕事があるのかどうか、そういったバックアップなども考えてもらいたい。

回 答：街が継続していくためには産業というものが必要であるし、働く場がなければ若い世代が定着しないというのもご意見のとおりだと思う。立地適正化計画の検討体制の中では、各分野の代表の方や有識者からご意見をいただく機会があるため、それらを踏まえて検討していきたい。

質問・意見：普段宮古駅の近くの商業施設などになかなか行く機会がなく、紫波町のオガールなど駅の周辺でまちづくりをしている事例があるが、そういった魅力のあるまちづくりをしてもらいたい。

回 答：紫波町の事例は行政が参画した開発の成功例であるが、宮古市で同じことができるかは分からないが、そういった街の魅力を作ることも重要なテーマの一つだと考えている。

質問・意見：人が少なく若い人の活気がないように思える。コンパクトシティも若い人たちが長く住んでいく場所だと思うので、もっと若い人たちに関心を持ってもらい、彼らの意見も盛り込んで住みやすい街にしてほしい。

回 答：実際に計画を進めていく段階で、若い人が主体になるので、その世代にも投げかけて声を聴いていきたいと考えている。

以 上

